令和４年度　第 28 回　大学院セミナー

令和４年　10 月　24 日

分　野　名 Area of Research (責任者名)(内線)	腫瘍医学分野 責任者名(　池田裕明　)　　内線(　7079　)
演　　題 Title	**新規がん遺伝子 GRWD1 の発見とその臨床的意義**
講　師　等 Presenter	九州大学大学院薬学研究院　医薬細胞生化学分野 教授　藤田雅俊
概要 Abstract	私たちの研究室では、複製を中心とした染色体機能制御機構の解明を目指し基礎研究を進めている（*Nucleic Acids Res.* 2021; *J. Cell Biol.* 2021; *Nucleic Acids Res.* 2018 等）。その過程で、複製開始複合体形成を促進する新規ヒストンシャペロンとして GRWD1 を発見した（*Nucleic Acids Res.* 2015）。 更に解析を進めたところ、GRWD1 はがん抑制因子 RPL11（Ribosomal protein large 11）に結合することにより p53 量を抑制し、がん遺伝子として機能することが明らかとなった。実際にこの p53 抑制活性により、GRWD1 の過剰発現を HPV E7 による RB 抑制、活性化 Ras 発現と組み合わせると、ヒト正常細胞を transform することができた（*EMBO Rep.* 2017）。加えて、GRWD1 は RPL23 および p53 自身と結合することによっても p53 抑制的に働くことがわかった（*J. Cell Sci.* 2018; *J. Biochem.* 2020）。現在、GRWD1 の臨床的意義の解析を進めている。公共データベースを網羅的に解析したところ、少なくとも脳低悪性度グリオーマ、皮膚メラノーマ、淡明細胞型腎細胞がんにおいて、p53 野生型患者の悪性度（予後）と GRWD1 高発現はよく相関した。その高発現の分子機構の解明も進めている。これらのがんにおいては、GRWD1 が診断的価値を持つ可能性と共に、その阻害剤が開発できた場合の有用性が期待される。
開催日時 Date and Time	令和４年　10 月　24 日(月) 18:00　～　19:30
開催方法 Online/Face to face	医学部基礎棟１階 **視聴覚セミナー室１**
備　　考 Notes	事務担当　：　腫瘍医学　林(7081) please contact Ms.Hayashi(7081).

☑先端医療科学特論(基礎編)　　☐先端医療科学特論(臨床編)
☐先端新興感染症病態制御学特論　　☐先端放射線医療科学特論
☑日本語(Japanese)　　☐英語(English)
☑対面(Face to face)　　☐オンライン(Online)